

## 日米大学アスリートの文武両道に対する意識の比較

### 文武両道はいかにして作られてきたか

The comparison of attitudes towards managing both Academics and Sports  
between university athletes in Japan and the U.S.

- How the idea of managing both Academics and Sports was created -

1K06A141

指導教員 主査 石井昌幸先生

高畠 遥

副査 奥野景介先生

#### 【はじめに】

文武両道とは、今日において一般に学問とスポーツの両方に優れた人物を指す。本研究においては、日米の大学アスリートの「文武両道への意識の比較」を特に、日米の大学アスリートを取り巻く環境的な要因に着目して論証していく。日本の運動部学生の中には、成績不良、卒業後・引退後の進路や学業とスポーツの両立の困難性を悩みとして抱える学生が多い。なぜこれらの悩みが浮かび上がっているのか。アメリカの大学スポーツを支える制度と日本の大学スポーツを支える制度を多面的に比較し、それが学生アスリートの「文武両道」意識の形成に与えている影響について考察する。そして、日米学生アスリートの生活実態の違いや意識の違いを実際にインタビューやアンケートから具体的に調査し、日米大学アスリートにおいて文武両道が実際に達成されているのかを確かめたい。

#### 【第一章 アメリカの大学の歴史と日米大学スポーツの組織の比較】

第一章では、アメリカの大学の歴史と日米大学スポーツの組織の比較をする。特にアメリカの大学スポーツの組織の根幹を探り、それにより、日本の大学スポーツの問題点を見つける。

#### 【第二章 アメリカの大学アスリートと早稲田大学のアスリートの入試形態・入部の比較】

第二章では、特に日米の体育会への入部の基準を比較する。アメリカの体育会で競技に専念するということは、その中で、スポーツの成功と学業における規定のルールをクリアしていくことができるのみならず、多くの期待を背負っている。

#### 【第三章 日米大学アスリートの文武両道の意識の違い】

本研究のメインである第三章では、アメリカの大学生アスリートと比較して、日本人大学生アスリートが一番苦労すると言われている「文武両道」をどのようにしてクリアしてきているのかを明らかにするため、日米の学生アスリートを取り巻く様々な環境的な要因を制度的な違いから見ていく。また、日米の学生アスリートの日常の学業への取り組み姿勢をインタビューやアンケートから比較し、日米学生アスリートを取り巻く制度的要因が日米学生アスリートの文武両道への意識に与えている影響について考察する。

ここでいう学生アスリートとは、アメリカにおいてはディビジョン のチームに所属する選手、日本においては、スポーツ推薦で大学に入学した学生や代表として活動している学生である。

#### 【おわりに】

アメリカの大学アスリートを取り巻く環境を多方面から考察したことにより、日米の大学アスリートの文武両道への意識の高さがこれらの制度的要因により作り上げられてきたことがわかった。日本の大学スポーツに参加しながら文武両道を志していく際に、大学アスリートにとって重要なことはアスリートとしての活動であり、学生としての学業的な部分は二の次というような意識を変えていかなければならない。まずは、学生としての本業を軸にすることが、その後のキャリアにも繋がっていくからである。その為には、日本もアメリカの大学スポーツの制度を見習い、学生アスリートの学業とスポーツの両立をサポートする環境をもっと整えていく必要があるだろう。それにより、日本の大学アスリートの学業に対する意識も変わっていき、学力レベルもスポーツのレベルも高いアスリートとして強い学生がでてくると考える。学生アスリートにとって、スポーツ選手以外の自分も構築していく場として大学があってほしいと考える。